

『杏壇』の著作権について

『杏壇-Kyodan.com-』のホームページに掲載、あるいはダウンロードした文章・写真・イラスト等は著作権が存在し、各国の国内法による著作権法の保護対象になります。「複製」や「引用」をする際は著作者の承諾を得てください。

複製について

『杏壇』の文章・写真・イラスト等を複製する際は次の点に気をつけて下さい。

複製する場合は『杏壇-Kyodan.com-』に許諾が必要になります。連絡先等は下記に掲載しています。複製は私的使用の範囲に限られています。私的使用とは「個人的に、または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用すること」とです。『杏壇Reports』や『杏壇の問題資料集』を使用人以上の人がダウンロードや印刷をしたり、必要以上にダウンロードや印刷することをです。『杏壇Reports』や『杏壇の問題集』では「印刷できない」「ダウンロードできない」というかたちで自主的に規制しています。印刷したい場合、有料にて承ります。

引用について

『杏壇Reports』を引用する際は次の点に気をつけて下さい。

引用する際は『杏壇-Kyodan.com-』に許諾が必要になります。連絡先等は下記に掲載しています。引用する際は引用部分をカギかっこでくくるなど、本文と引用部分を明確に区別して下さい。著作者の意図に反した変更・削除はできません。また文章の概要がわかる形で要約することもできません。「引用」する際、「出所の明示」が義務づけられています。引用部分と著作者名を挙げなければいけません。『杏壇Reports-Kyodan.com- 題名 』の表示が必要です。

連絡先について

『杏壇-Kyodan.com-』への使用許諾の申し込みは、メールのみで承っています。

『杏壇』プライバシーポリシー・著作権係までprivacy@kyodan.com

今まで様々な形でデジタルと教育の融合を図ってきました。
昔からあるものと言えば、
CAI(Computer Aided Instruction/Computer Assisted Instruction)です。
パソコンの画面に問題が出てきて、それを解いて、
パソコンで答え合わせするもの。
あるいは有名講師の授業がビデオで見ることができ、
それを見ながら学習するもの。
最近で言えば、
インターネットのテレビ電話を使うことにより、
自宅にいながら家庭教師の授業を受けられる
というものも最近あるようです。
どれも教育にかかる時間や空間、お金を効率化しているのです。

しかし一定の成果はそれぞれ収めてはいますが、
普通の教育に取って代わるような爆発的なヒットにはなっていません。
やはりパソコン問題を解いても、先生の解説は必要ですし、
ビデオで授業を聞いても、やはり直接聞ける先生が欲しいのです。
インターネットの授業での先生も生徒も
歯がゆい思いをしていることだと思います(ここは推測ですが)。
つまり本当の意味での効率化にはなっていないのです。

なぜなら、授業というのは、教育というのは、
余計な部分があってこそ成り立っているからです。
学校でもいなかっただでしょうか??
授業を時々潰(つぶ)して、過去の経験をそっと話してくれた先生。
もちろん授業としては進みませんが、
生徒は先生の経験というのを疑似体験し、
さらにその生徒にとって未知の経験に対して尊敬もしていたのです。
その経験を話すことで、生徒からの信頼を得て、
その信頼で生徒はきちんと授業を聞くようになるのです。

しかしパソコンやメディアを通して学習していくものに、
そういった余計なものはありません。
いかに効率的に勉強できるのかを追究したものですから、
余計なものがないように作られているのは当然です。

しかしそれは教育や授業に関して言えば、
時として遠回りになってしまうかもしれません。

またパソコン、メディアを通じて教育する最大の難問は
デジタルディバイド(デジタル格差)にあります。
パソコンができる生徒とできない生徒との差はかなり大きいです。
これは親のパソコンに対する考え方の影響が大きいからです。
親が富裕層と貧困層にいるかでも違いますし、
親が仕事等でパソコンに関(かか)わっているかでも違います。

デジタル教育の一番の問題点は
このデジタルディバイドが問題になってきます。
家にパソコンもあり、日ごろからインターネットを活用しています
パソコンに何の抵抗もなくできる生徒にとっては
デジタル教育というものは比較的受け入れやすく、
逆に家にパソコンもなく、パソコンに抵抗がある生徒は、
デジタル教育というものは受け入れを拒否するかもしれません。

また学校の先生や塾講師間でもこの問題はあり得ます。
パソコンを使いこなせる先生はデジタル教育というのは便利だと思います。
しかしパソコンを使えない先生にとっては苦痛でしかないでしょう。
効率化を求めて導入したのに、逆に効率が悪くなってしまうこともあります。

この格差も生徒だとあと7、8年もすれば少なくなっていくでしょう。
また今の学校の先生や塾講師は、
学校や大学でパソコンを普通に使っている先生がほとんどです。
だからこの先、メディアやパソコンを使った教育というのは
ますます盛んになっていくでしょう。
だからこそ、デジタル教育というのは、単に効率化だけではなく、
デジタルの特性を生かした教育が必要になっていくでしょう。